

The Weekly Journal of Tokyo Rinkai Rotary Club



クラブ会長ターゲット
「友情を育み、地域社会に貢献する」
"Foster friendships,
Contribute to the community."
2019-2020年度
東京臨海ロータリークラブ会長
佐藤正樹



国際ロータリーテーマ
「ロータリーは世界をつなぐ」
"ROTARY CONNECTS
THE WORLD"
2019-2020年度
国際ロータリー会長
マーク・ダニエル・マローニー

2020年1月8日【第1164回】

創立：1994年8月8日
会長：佐藤正樹
副会長：高橋映治
幹事：杉浦孝浩
会報委員長：勝間田健一

1月8日の卓話	12月18日の出席率	1月15日の卓話
<p>新年初例会 「歴史を知り、将来を考える」 東京臨海ロータリークラブ 元会長 斉藤実様</p>	<p>会員在籍者数 42名 会員出席者数 29名 会員欠席者数 13名 本日の出席率 72.50%</p>	<p>「未定」</p>

《第1163回例会報告 2019年12月18日》

司会：井上会員



■ 点鐘：佐藤正樹会長



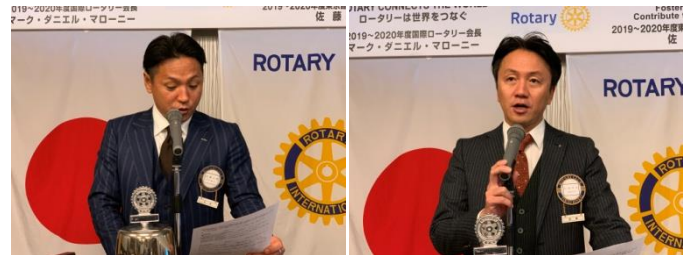
- ロータリーソング斉唱「それでこそロータリー」
：ソングリーダー 舛本会員
- 「四つのテスト」斉唱（歌）
- 「ロータリーの目的」
東京臨海RCVer. 唱和：高橋副会長



■ 来賓・ゲストスピーカー紹介：佐藤正樹会長

ゲストスピーカー 田中紘太様（当クラブ会員）

- ビジター紹介：篠塚慎之介会員
山口幸一様（東京城東RC）
栗山義広様（東京臨海西RC）
西野充英様（東京臨海西RC）



■ 会長報告：佐藤正樹会長



- ・ 厚生労働省「看護業務の効率化 先進事例アワード 2019」の優秀賞「AI・ICT等の技術の活用部門」で、

井上晴貴会員の事業所 訪問看護リハビリステーション アオアクア様が受章しました。クラブよりお祝金を贈呈致します。

・受賞のご挨拶（井上会員）

東京都で当社のみ、訪問看護事業では全国で当社のみのお賞となり、東京国際フォーラムにて授賞式があり、メディアに出ます。宜しくお願い致します。



- ・一般財団法人比国育英会バギオ基金より、感謝状が届いておりますので贈呈致します。
- ◇齊藤実会員（第63回感謝状）
- ◇酒井教吉会員（第3回感謝状）
- ・年次総会を本日例会後、この会場で開催致します。会員皆様のご出席をお願い致します。
- ・2022-23年度当地区ガバナー（ガバナーノミニージェグネート）は、東京東江戸川 RC 会員 嶋村文男（しまむら ふみお）様に決定致しました。
- ・首里城火災支援金にご協力お願い致します。募金箱を本日（12月18日）と新年1月8日の例会時に回させていただきます。集まった支援金は、第2580地区経由で、那覇市長から沖縄県へ送金するとのことです。会員皆様のご協力を宜しくお願い致します。

■幹事報告：杉浦幹事

- ・当クラブ例会は、今年は今日が最終です。新年は、1月8日のお昼の例会からスタートです。
- ・12月の理事役員会議事録は、12月5日会員皆様へメール送信致しました。
- ・第2580地区ガバナー事務所からの連絡です。2019年9月台風15号災害支援金の第2580地区に集まった総額は、2,952,000円になりました。12月13日付で第2790地区（千葉）へ送金されたとのことです。詳細はホワイトボードに掲示致しました。



■委員会報告

- ・オレンジボール担当（坂本康朋副委員長）
東京臨海 RC 旗争奪江戸川区学童オレンジボール大会閉会式は、12月7日（土）終了しました。
- ・親睦活動委員会（井上委員長）
忘年家族会に大勢の皆様にご出席・ご協力いただきましてありがとうございました。
- ・姉妹クラブ担当（酒井副委員長）
台北仁愛 RC 創立33周年記念式典が、12月13日に行われました。7名にて参加してまいりました。
- ・職業奉仕委員会（佐藤大輔委員長）
職業奉仕部門フォーラムを2020年1月22日例会後に開催致します。
- ・ロータリー財団担当（小松委員）
ロータリー財団寄付の件
当初より財団への寄付をお願い致しておりまして、大半の方よりご寄付頂いており、ありがとうございます。引き続き、宜しくお願い致します。



■出席状況報告：地引会員

⇒詳細1頁バナー下に掲載。

■ニコニコBOX報告：白幡会員

（ご意向）今月16日の東京臨海西 RC の忘年家族会に親クラブ三役並びに特別代表、発起人代表にご出席頂き誠にありがとうございました。昨夜は、大変お世話になりました。ありがとうございました。：栗山義広様（東京臨海西 RC）

(ご意向) 三役の皆様、斉藤特別代表、鈴木発起人代表、先日は、当クラブ忘年家族会にご出席頂き、また多大なお祝を頂きましてありがとうございました。: 西野充英様 (東京臨海西RC)

(ご意向) 本日、卓話のお時間に、イニシエーションスピーチをさせていただきます。宜しくお願い致します。
: 田中会員

(ご意向) 田中紘太様、本日のイニシエーションスピーチ、楽しみにしています。: 佐藤正樹会長、高橋副会長、杉浦幹事、佐久間裕章会員、勝間田会員、須藤会員、村社会員、佐藤大輔会員、篠塚慎之介会員、井上会員、斉藤会員、小松会員、入澤会員、山田会員、田村会員、柴田会員、坂本康朋会員、酒井会員、本多会員、白井会員、白幡会員、榎本会員、笹本会員、大澤会員、小林会員

【28件 68,000円 今年度累計 1,054,000円】



■卓話 (紹介者: プログラム担当 山田委員)
「イニシエーションスピーチ」
当クラブ会員 田中 紘太 (こうた) 様



株式会社マロー・サウンズ・カンパニーの田中紘太と申します。当社は東京都江戸川区一之江、葛西、千葉県浦安市、市川市にて4事業所、介護保険のケ

アマネジャーの事務所を経営しております。

本日は「イニシエーションスピーチ」のお時間を頂き、誠にありがとうございます。私は9月1日付で東京臨海ロータリークラブに入会させて頂き、早いものでもう3か月が過ぎました。毎週水曜日の例会への出席も徐々に自分自身の生活習慣となってきましたが、まだまだ現場も兼務しているプレイングマネジャーの為、仕事の調整がつかず、すでに2回程休んでしまっています。来年以降は仕事量を調整し、出来る限り例会を休まないよう努力したいと思います。本日頂戴しました貴重なお時間で私の生い立ち、職歴などをお話しさせていただきます。

生年月日は昭和57年3月13日魚座、A型、37歳です。生まれも育ちも千葉県市川市新井という、東京メトロ東西線浦安駅と南行徳駅のちょうど中間地点となっており、歩いて徒歩1分の所には東京ベイ浦安市川医療センターという総合病院がございます。この東京ベイ浦安市川医療センターは過去には葛南病院と言われておりまして、私はこの葛南病院の生まれです。男3人兄弟の次男として生まれました。両親ともに公務員で、父は千代田区役所の土木課に勤務し、定年退職まで勤め上げました。現在も千代田区のパトロールのような仕事を週2日程度行っています。母は千代田区の保育園の保育士として勤務し、最後は園長として千代田区内の保育園を回っていました。父方の祖父は新宿区西落合で染物屋を営んでおり、95歳で亡くなりました。祖父母が亡くなるまでは毎年お正月には祖父の家に泊まり、三が日中大勢の親戚を招いて宴会をしていたものです。幼少期の私は祖父の家の近くにあった中野区にある哲学堂公園でよく遊んだものでした。祖父は今から9年程前に亡くなりましたが、その時にすでに私が介護の仕事をしていたこともあり、家族全員が交代で泊まり込み、自宅で看取りを行いました。食べ物も食べなくなり、水分も取らなくなり最後は枯れるように亡くなったのを今でも覚えています。祖父が亡くなった後、高齢の祖母が新宿区の家で一人暮らしを続けていましたが、強盗が2度も入り心配になり千葉県市川市の私たちの家で引き取りました。祖母が生きていた頃は、祖母、私の父、母、私たち夫婦、私の子供達と今では珍しい親子4世代で生活をしていました。祖母は私の孫の面倒をよく見てくれ、長男、次男、三男、長女と4人私の子供達を育ててくれました。そんな祖母も今年の5月に口腔癌が見つかり、見つかってすぐに余命2カ月の診断を受け、7月に亡くなりました。祖母も自宅で最後まで看取りたかったのですが、口腔癌という特殊な癌で頬に穴が空いてしまい、食べ物や飲み物が口から飲めなくなり、癌が膨れ上がり、非常に強い悪臭が出てしまった事もあり、家族で相談し私が普段から懇意にしている病院で最期を看取って頂きました。祖母は94歳で亡くなりましたが、殆ど医者にもかからず、介護保険も使わず、癌にかかる93歳頃までは非常に元気でした。私の仕事柄祖母の担当ケアマネジャーとし

て就かせて頂きましたが、結局自宅にいる時に使ったのは普段から懇意にしている訪問診療の先生と医療保険の訪問看護ステーションのみで介護保険は利用しませんでした。

話は少し戻りますが、母についてです。母は生まれも育ちも浦安であり、生粋の浦安っ子です。母は早くに祖父を若くして亡くしたため、祖母に女手一つで育てられました。当時は非常に貧困だったと聞いており、定時制の高校に通いながら私が生まれた葛南病院で看護助手として勤めていたと聞いています。そのため、母は儉約家であると思います。母方の親戚は浦安橋のたもとで釣り船屋、屋形船を吉野家、吉久という屋号で営んでおり、よくテレビなどでも取り上げられ、最近でもブラタモリに出ていますので聞いたことがある方もいるかもしれません。大人になってから釣りを始めましたが、釣りをするときにも今でも使わせて頂いており、柴田会員らと共に釣り大会を企画し数回行った事があります。私自身釣りは下手で、魚も捌けません。柴田会員に教えてもらいながら少しずつ勉強している所です。

話を戻しますが、そんな公務員の両親に育てられ、さぞ真面目な子供に育つかと思いきや、子供の頃から今でいう「多動」で落ち着きがなく、3歳の時にも家から脱走し行方不明になり、捜索願が出されたことがあったと聞いています。地元の新井小学校に入学し1年生の時には椅子に座って授業を聞くということが全く出来ませんでした。席は常に担任の先生の目の前に座らせられ、授業中に怒られ廊下に立たされると、そのまま脱走し一人で校庭を走り回っていたそうです。学校にはおもちゃを持ち込んで机の上で遊んでいました。その当時の担任の先生の努力の甲斐あって、徐々に授業や勉強に集中することが出来るようになってきました。また小学校1年より同じクラスになった幼馴染の親友とは今でも親交が続いています。彼とは家族ぐるみの付き合いで、彼の父が小学生のわんぱく相撲のコーチをしていた関係で私も友人と共に小学校1年生から相撲クラブに入り、相撲に取り組んでいました。私は相撲クラブの中では身体が小さい方でしたが、練習の甲斐もあり、6年生の時には市川市内の小学生の大会で8位に入賞することが出来ました。幼馴染の友人は身体が大きかったため、大会で優勝し全国大会に出場していました。私は相撲部とサッカー部を掛け持ちし、小学生時代は勉強よりもスポーツに汗をかいていました。サッカー部でもディフェンダーでしたがレギュラーとして試合に出場することが出来ました。地元南行徳中学校に上がったからは、相撲部がなかったため、幼馴染と共に近所の柔道教室に通っていました。やはり体が小さかったため、成績を残す事は出来ませんでした。試合では辛うじて何度か勝つことも出来ました。また中学校の部活ではバスケットボール部に所属し、優秀ではありませんでしたが3年生の時には部長を務めさせて頂きました。中学校の頃より幼馴染と麻雀にはまっていきました。

高校は高田馬場にある保善高校に入学しました。高校に上がってからも麻雀にのめり込み、当時は高校生でしたが、毎日のように雀荘に通っていました。両親にも心配されましたが、雀荘で寝泊まりをして三日三晩打ち続けた事もあります。寝ずに麻雀ばかりしていて、体調を崩し吐血して入院した事もありました。病名は結果として盲腸でしたが、例の私が生まれた葛南病院に入院となりました。入院中に人相の悪い雀荘の店長や常連客の方がお見舞いに来てくれた為、周りの患者さんやうちの両親がザワザワしていたことを覚えています。退院後も麻雀ばかりしていたため、高校は単位が足りず留年、中退する事になってしまいました。周りの友人は皆進級していき、高校を卒業し大学に進む中、私一人が今でいうニートのような状態になってしまい、強い危機感を覚えました。そこで高校卒業と同様の資格が与えられる高校卒業認定試験を受け、合格し東京医療福祉専門学校介護福祉課に進学しました。介護福祉士の専門学校を選んだきっかけは、当時同居していた母方の祖母の影響があったかもしれません。祖母と長年一緒に生活していたため、高齢者介護という仕事に興味を持ちました。専門学校は中央区八丁堀にあった為、銀座が近く専門学校時代はバーのような飲み屋でアルバイトに明け暮れました。この頃妻と知り合い、付き合いだしました。妻とは地元の瑞江教習所で知り合いました。専門学校卒業後、両親の勧めで千代田区一番町にある特別養護老人ホームで勤めました。その時の上司が江戸川区に転勤になった事がきっかけで、私も転職し江戸川区内のデイサービスで働き始めました。江戸川区のデイサービスで働き出した頃、妻と結婚し長男を設けました。結婚は妻の希望もありやや早めの24歳の頃でした。江戸川区で勤め始めて3年が経った頃、幼馴染の友人は美容師として働いていましたが、彼はワーキングホリデーでオーストラリアに行っていた経験もあった為、日本人美容師3名程でオーストラリアで美容院を開業しました。私もそれに触発され、自分で事業を起こしたいと考えていたところ、高齢者配食サービスという宅配弁当のフランチャイズオーナーの募集を見つけました。まごころ弁当というフランチャイズでしたが、当時はフランチャイズ本部として立ち上がったばかりで加盟店が1店舗もなかったため、本部が開業資金を肩代わりしてくれるので1号店にならないかとの声を掛けて頂き、妻にも相談し起業を決意しました。当時次男が生まれたばかりで長男もまだ3才だったと記憶しています。何の計画性もない私の起業によく妻が許可を出してくれたと今でも感謝しています。妻が貯めていてくれた約600万円の手元資金で弁当屋を始めましたが、高齢者向け配食サービスというちょっと特殊な業態の為、事業は中々軌道に乗りませんでした。貯金は運転資金でどんどんなくなり、家の預貯金は残高2千円までなくなりました。底をついてから、営業努力の甲斐もあり、徐々に成績は良くなり、5年経つ頃には月商

400万位にはなり、従業員も徐々に増えて行きました。しかし、フランチャイズであったため、ロイヤリティとして本部に売上げの5%を取られ、さらには元々の食材原価率が異常に高い仕組みとなっていたため、働けど働けど生活は一向に楽にならず5年間1日も休みなく朝5時から夜11時位まで働きましたが、手元にお金はあまり残りませんでした。その為色々な介護関連事業に手を出しましたがどれもいまいち上手く行きませんでした。その中で利益率は低かったんですが、じわじわと売上げを伸ばしていた事業が今のケアマネジャーの事業でした。当時弁当屋として働いていた傍らで勉強しケアマネジャーの試験に合格したため、弁当屋のガレージの片隅でひっそりとケアマネジャー事業の許認可を取り開設していました。私自身未経験でケアマネジャーの事業を立ち上げた為、開設後すぐに入社してくれた社員に教わりながら仕事をしていました。その社員も今では60歳を迎えましたが、今でも葛西店の責任者として勤めてくれています。高齢者向けの配食サービスの対象は、いわゆる買い物難民、買い物弱者と言われる、足が弱ってしまって買い物に行けない高齢者や障害者の方が主な顧客でした。そのため、水や電気と同じようにその方達にとっては一日も欠かす事が出来ないライフラインとなる為、それを届ける我々も盆も正月も休まずに届けることが必要でした。今でも夢に出てきますが、東日本大震災の日、ガソリンがなくなり、ガソリンスタンドに毎日2時間以上並びバイクのガソリンを入れていました。夫婦で弁当屋をやっていたため、子供は保育園に預けていましたが、震災の日や次の日に子供を保育園に預けていたのは我が家だけでした。それでも一日たりとも休むことは出来ないため、朝から晩まで弁当を配り続けていました。大雪の日にバイクにチェーンをしても前に進まない日もありました。何度もバイクで転倒しながら弁当を配り終え、店に帰ったのは夜10時になっていた事もありました。当然高齢者の方は夜10時まで待っているわけですが、雪の中頑張っても時間も遅く、バイクで何度も転倒している為、弁当はぐちゃぐちゃになり、当然苦情になりました。台風の日もありました。弁当屋時代は自然災害との戦いだったと覚えています。1日100件近くバイクで配って回り、一日中外にいるわけですから、今のような冬の時期は完全な防寒対策をして走り回っていたのは今となっては良い思い出です。そんな弁当屋を辞めるきっかけとなったのは、やはりフランチャイズだからという事でした。本部も非常に成績が良く、昨年には東証マザーズに上場しましたが、店舗数が全国300店舗を越え、600店舗を越えると同じエリアに同じ屋号の店舗が2店舗、3店舗と増えていきます。江戸川区のまごころ弁当は始めは私が行っていた、まごころ弁当江戸川店でしたが、そのうちに江戸川中央店が出来、江戸川北店が出来ました。中央店も北店も私が経営している店ではなく、他の方が経営していますが、私が

何年もかかって営業し開拓してきたエリアに本部が何かしらの理由を付けて他の経営者の方を開業させ、屋号も同じですから共食い状態となりました。コンビニでも良くある状況かと思いますが、経営している立場からすれば、これ以上ないストレスでした。さらに本部からの要求はエスカレートし、食材原価を上げる、販売価格を下げる等様々でした。加盟店1号店で、当時全国300店舗中営業成績は毎月トップ3に入っていた私の店舗でも非常に苦しい経営状況であり、オーナー兼店長として毎日現場に入らないといけない状況、そしてエリアの共食い状態となり私が頑張っても他の店に新規を取られてしまう、非常に悪いスパイラルに陥ってしまっていたため、フランチャイズの権利を売却し、当時は売上げ規模も非常に低かったケアマネジャー事業に専念する事にしました。ケアマネジャーという仕事は、正式名称居宅介護支援事業所と呼びます。在宅の要介護者に対して介護保険の説明を行い、身体状態、病歴、現病、生活状況、家族状況、本人の生活に対する意向、家族の生活に対する意向などを伺い、その方一人一人の介護の計画、ケアプランを作成し、関係介護サービス事業者への調整を行う事が主な仕事となっています。当時はまだ今ほど在宅要介護高齢者は溢れかえっておらず、ケアマネジャーも病院や地域包括支援センターという地域の相談窓口を回り仕事を取ってこないと新規の依頼は頂けませんでした。弁当屋をしていた私は毎日営業活動でケアマネジャーの事務所を回っていた経験があり、比較的集客は容易に行えました。ケアマネジャーの仕事は役所に書類の提出なども行う為、役所が休みの時は仕事にならないこともあり、土日祝日年末年始は休むことができます。5年間一日も休まなかった私からすると生ぬるい感覚でした。仕事癖が抜けず、人一倍働き、社員が一人増え、二人増え、今では30名のケアマネジャーが在籍する、ケアマネジャー専門の会社としては江戸川区、浦安市、市川市辺りでは比較的大きな会社に成長することが出来ました。離職率も非常に低く、今でもほとんどの社員が辞めずに頑張ってくれています。ケアマネジャーの仕事は、医者と薬局の関係にも近く、ケアマネジャーがデイサービスや訪問看護、福祉用具等のサービス事業者の調整を行う為、自社で他の介護サービス、医療系サービスを持っている場合利益誘導や情報操作が容易に出来てしまう立場にあります。利益誘導が行われると何がいけないのかと言いますと、介護保険の事をあまり知らないご利用者様に対して、必要のない余分なサービスを勧められたり、情報操作を行い、他社のサービスを紹介せずに自社サービスのみを紹介する恐れがあるからです。介護保険といっても、半分は公費税金が入っています。もう半分は40歳以上の方が徴集されている保険料で賄われています。急激な高齢者増により、社会保障費は毎年自然増だけで3000億円~4000億円膨れ上がっています。限られた財源を有効に活用し無駄な介護保険給付は削減

しないと、介護保険制度自体が破綻してしまうため、3年に1度制度改定が行われています。当社は中立公正なケアマネジメントを実践し、社会保障費の削減に寄与していると厚生労働省から認められ、現在では厚生労働省が行う介護保険法改定の委員にも選んで頂きました。国の機関の方が当社をモデルケースとして、全国のケアマネジャーの事務所に広めたいと言って下さり、年に数回厚生労働省や研究機関の方がヒアリングに来て下さるようになりました。弁当屋時代は非常に辛い経験もたくさんしましたが、少しは根性がついたのか、今の自分があるのはあの時の辛い経験があったからこそだと今になって感じています。

まだまだ道半ばではございますが、東京臨海ロータリークラブに誘って下さった井上社長、一回りも年下の私に声を掛け、気に掛けて下さる柴田会員には日頃から感謝しております。そして東京臨海ロータリークラブの皆様、まだまだ若輩者ですし、入会したばかりで右も左も分かりませんが、これからもご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い致します。

長時間に渡りご拝聴頂き、誠にありがとうございました。

■点鐘：佐藤正樹会長

クラブ年次総会報告



日時 2019年12月18日(水) 13:35~13:45

場所 東武ホテルレバント東京3階「芙蓉の間」

出席者 会員42名中28名出席

議案

1. 定款・細則変更の件
2. 前年度(2018-2019年度)財務報告
3. 現年度(2019-2020年度)の財務中間報告(期間:2019年7月~2019年11月分)
4. 次年度(2020-2021年度)理事・役員選出の件

【役員】

会長	佐久間裕章
副会長・会長エレクト	佐藤 大輔
幹事	坂本 康朋
会計	杉浦 孝浩
会場監督(SAA)	勝間田健一
直前会長	佐藤 正樹
副幹事	勝間田健一

【理事】

クラブ奉仕委員長	佐藤 大輔
----------	-------

職業奉仕委員長	酒井 教吉
社会奉仕委員長	村社研太郎
国際奉仕委員長	小松 啓祐
青少年奉仕委員長	井上 晴貴
会計監査	高橋 映治
親睦活動委員長	笹本 寛治
親睦活動副委員長	尾身 治彦
諸団体交流(新会員ピックアップ増強チーム)副委員長	舛本 俊輔
理事	鈴木 孝行
理事	斉藤 実
理事	本多 信雄

※理事会は上記役員・理事の計17名で構成する。

上記4議案は、全て原案通り承認



会員インタビュー

貴方の会社、もしくは貴方の仕事の「目的・目標」を、各46文字以内で教えて下さい。

舛本 俊輔 会員

会社の「目的」

家族や仲間、並びに世界万民の幸福を創造すること

会社の「目標」

日本を世界で一番働く人が活躍できる国にすること

ご協力、有難う御座いました。

2019～2020年度 家庭集会

テーマ「 四つのテスト 」

第3グループ 家庭集会 議事録 2019年11月18日



■ 齊藤パスト会長

RCの4つのテストは各宗教を超えた一つの倫理訓として広まったのが始まりで、日本には東京RCが訳したものが広まっています。今日はこれを紐解いて、みんなで語り合いたいと思います。1と3、2と4が表裏一体になっているという解釈もあります。例えば、本当のことを言った方がいいが、事によっては本当のことを伝えない方が友情を深めるのではないかということです。2と4は公明正大かということです。ロータリーの原点は超我の奉仕です。

■ 勝間田会員

4つのテストは入会後に一番歌っている歌なので、一番覚えています。真実かどうかは常に考えていて、疑問に思うことがあった時には理解できるまで突き詰めるようにしております。みんなに公平かは、社員に対して考えていて、評価制度の見直しなどを行っています。友情は深めていきたいです。みんなのためになるかどうかは、みんなのためになれるよう、昨日できなかったことができるようになるを日々実践して成長していきたいと思っています。

■ 柴田会員

ロータリーの中で考えると、言行はこれに照らし合わせてだと思いますが、1番に関しては、プライベートではどうかと思うところもあります。2番は、社員に対しても公平に接していかなければならないという訓示になります。3番を求めて入会致しました。4番は、非常に大きいお題目なのですが、みんなのためになれるよう努めます。

■ 井上会員

日本で優秀な会社になるということで、働きたい会社になるべく努力しております。最近では、ワクワクできて働きたくなる会社になるべく、事業計画書を作成致しております。会社の社会的地位を向上させていきたいと存じます。来年度より、明治大学に入学し、経

営の勉強もしていきます。宜しくお願い致します。

■ 田村会員

4つのテストは自宅で額に入れて掲示しています。この4つのテストがロータリー活動につながっていると解釈しており、1がクラブ奉仕、2が職業奉仕、3が社会奉仕、4が国際奉仕となっています。ロータリーの目的も4つあります。唱和するのはいいことだと思います。自分自身もこれに照らし合わせて、仕事もプライベートも意識しつつ、お互いに共栄、共存できるのかなと思います。優先すべきところとタイミングというのはあることなので、その時々でお互いがフォローできるような関係性を築いていきたいです。

■ 榎本会員

考えたことがあまりありませんでしたので、これからは、訓示にして言動をしていきたいと思っています。

■ 酒井会員

4つは全て商売のために作った言葉だと思うので、やはり職業奉仕の言葉だと思います。事業を反映させるための訓示だと思います。当社にも理念や指針がありますが、よくこの4つにまとまったなと思いました。また、この訓示を真剣に考えている皆さんがかっこよく見えました。自社の理念にも活用して、理念浸透を社員にいかにかできるかと思っています。人を欺いてしまうと会社は長続きしませんし、友情も不義理をすると続きません。このテーマを考えることによって、ロータリー活動と仕事が結びついたように感じます。

■ 舛本会員

臨海西RCの西野会員に保険のコンサルをしていた際に、売り込まれると思っていたのですが、話を聞いて頂いて、自分に合ったコンサルをしていただきました。自分のプラスにならないことをなぜしてくれたのかという疑問が生まれたことがありました。その半年後に、尾身会員に人材スカウトの依頼を頂いた際に、当社のスカウト手法にはニードが合っていなかったため、他社の人材紹介会社を数社お勧め致しました。そうしたら、尾身さんから感謝されましたが、同じように何のメリットがあるかと尋ねられ、その時に西野さんのことを思い出しました。これが西野さんの気持ちだったのだと痛感し、ロータリーってすごくいいなと思いました。この経験は4つテストにつながっているなと解釈致しました。

■ 佐藤会長

会社に飾っている方が結構いらっしゃいます。3分の1くらいの方が飾っているかと思っています。入会当初は3番のみ考えていまして、今は4番を考えています。会社がピンチの時に復活した最大の理由はこの4番を考えられたからだと思っています。関わる皆さんのためになっているかということ大切にしています。1番と2番は肚落ちしていません。嘘も方便という言葉がありますが、人を傷つけない嘘もあっていいのかなと思います。2は、年齢的な部分があるので、上下関係はあってしかるべきかなと思っています。

■ 高橋副会長

歌にしてよかったと思います。4つの目的も歌にして

はどうでしょうか。また、和訳すると意味が微妙に違います。1はそれって本当？というニュアンスかもしれません。性悪説からきているのかもしれませんが。2は儲けすぎているんじゃないの？で、3は売ったきりにならないよね？で、4は利害関係者が全員儲かるの？とっています。RCの職業奉仕はRCならではの。職業奉仕の理念がこの4つのテストなんだと思います。他の諸団体にはない精神ですので、これは良い戒めなのではと思います。

■杉浦幹事

まず、歌にしたのがすごく入ってくるようになりました。4つのテストを意識して行動しているかという疑問が湧いてくるので、今回の家庭集会をこのテーマにしてくれた斉藤さんに感謝致しております。クラブの現状について話し合うことが多かったのですが、この全体のことを語り合うのは盛り上がるなと思ひまして、斉藤さんはやはりすごいと思ひました。RCは色々な哲学が入っていると思ひますが、4つのテストは60年位変わっていないので、すごい普遍的なものなのです。この哲学を実践していない会員は皆退会しているという話を聞いて、自分もより噛み砕いて日々過ごしていきたいと思ひます。

新年のご挨拶



東京臨海ロータリークラブ
会長 佐藤 正樹

新年明けましておめでとうございます。

日頃より東京臨海ロータリークラブの活動に多大なるご理解・ご協力を頂き、誠にありがとうございます。改めまして深く御礼申し上げます。

早いもので今年度も半年が過ぎ去りました。

本年度のターゲットは「友情を育み、地域社会に貢献する」とさせて頂いております。

自クラブの活性化（例会の充実、出席率の向上、会員増強、親睦活動の充実）、職業奉仕・地域社会貢献を積極的に実施しております。

昨年度に引き続き、会員50名体制を目指し、様々な施策を実施しております。

組織体制の一新、新入会員の更なる増強、新たな社会貢献事業である第1回パラボールフェスティバルの共催、そして、臨海東ロータリークラブ、臨海西ロータリークラブとの関係強化を図っていきます。

残り半年となりましたが、輝かしく誇らしい東京臨海ロータリークラブを皆様とともに永続的に作り上げていく為、微力ながら精一杯務めさせて頂きます。引き続きの皆様からのご協力、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



東京臨海ロータリークラブ
副会長 高橋映治

新年明けましておめでとうございます。

日頃より東京臨海ロータリークラブの活動にご理解、ご協力を賜り、深く

感謝いたします。

早いもので今年度も半年が過ぎました。

今年度は、ロータリーのルールが大きく変わり、クラブ細則の作り直しをいたしました。

他にも夏の暑気払いであるオールディーズナイトやらいおんは一とでの移動例会、新イベントのパラボール・フェスティバル、全5回の家庭集会、オレンジボール、忘年家族会と休む間もなく走りました。

佐藤会長と杉浦幹事がクラブ運営で悩み、汗を流し、走り回る姿を見て、私も知らず知らずのうちに共に悩み、汗を流し、走り回っていました。

残り半年、これ以上佐藤会長の眉間のしわが深くなるようにしっかりと支え、年度の終わりに皆が素晴らしい笑顔で大輪の花が咲くようにしたいと思います。東京臨海RCの今の勢いを更に加速すべく頑張りますので、皆様の更なるご協力とご理解を宜しくお願いいたします。



東京臨海ロータリークラブ
幹事 杉浦孝浩

新年明けましておめでとうございます。

あっという間に今年度も半年が過ぎました。

昨年は、会員増強が実現して40名を越すクラブとなり、奉仕活動として第1回パラボールフェスティバルの共催も実現しました。

佐藤会長のもと様々な行事にも参加させて頂き、より東京臨海ロータリークラブ愛が増した半年でありました。

残りの半年、更にクラブ運営が円滑に進むよう努めます。また次年度の新しい体制にスムーズに引き継げるようしっかりと親睦を図って行きたいと考えております。

東京臨海ロータリークラブの為に、また会員のロータリーライフが楽しくなるように精進して参りますので、今年も宜しくお願い申し上げます。